

秋田市、こども園でショー **ブリ解体に興味津々**



秋田市寺内のこども園「いずみ風の遊育舎」（星野和貴園長、113人）で17日、ブリの解体ショーが行われた。年長園児ら約40人が体長約70センチ、重さ約5キログラムのブリが切り身になっていく様子に見入った。

ブリをさばいたのは市内にある同系列のこども園の栄養士・木村憂子さん(38)。木村さんがまな板に横たわった鹿児島産のブリに手際よく包丁を入れていくと、最初は悲鳴を上げて思わず目を覆う園児も。それでも慣れてくると解体されていく様子に目を輝かせながら見入った。照井瑛南ちゃん(5)は「ブリはとっても大きかった」と笑顔を見せた。

切り身になったブリは塩焼きやあら汁に調理され、園児たちがこの日の給食で味わった。

解体ショーは食育の一環。調理にも携わった木村さんは「最近魚が嫌いな子どもが増えている。園では本物に触れる体験を大切にしており、少しでも魚に興味を持ってもらいたい」と語った。

(小野祐一)

(令和6年12月18日(水)秋田魁新聞より一部抜粋)